

情報公開用文書（附属市民総合医療センターで実施する医学系研究）

（他の研究機関への既存試料・情報の提供用）

西暦 2018 年 11 月 12 日作成

研究課題名	本邦における卵巣癌（上皮性腫瘍）に対する妊孕性温存治療に関する実態調査
研究の対象	2009 年 1 月 1 日～2013 年 12 月 31 日の間に、AYA 世代（15-39 歳）の卵巣癌（上皮性腫瘍）に対して妊孕性温存を目的とした治療を受けられた方
研究目的 ・方法	<p>近年、がん治療の進歩によりがん治療後に長期間生存できる、いわゆる若年のがんサバイバーが増加しています。これらのがんサバイバーにおいて QOL の維持・向上は重要な問題で、なかでもがん治療による妊孕性への影響は人生を左右する大きな問題と考えられます。しかしながら、我が国においては、がん患者の妊孕性温存治療に対する一定の指針がないのが現状です。</p> <p>本研究は、がん治療における妊孕性温存治療の現状を調査して最先端の治療を普及すること、生殖機能温存がん治療に必要な倫理性の高い医療体制を整備することを最終目的としています。</p>
研究期間	西暦 2018 年 12 月 11 日 ～ 西暦 2020 年 3 月 31 日
研究に用いる 試料・情報の 種類	<p>診療録から以下の情報を収集します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初回治療（手術）前の情報（年齢、結婚歴、妊娠既往、月経異常、挙児希望の有無、血液データ値、卵巣予備能検査施行の有無） ・診断および治療の方法（手術実施日、手術方法、進行期、病理組織分類、化学療法の有無、症状の有無、診断方法、治療方法、副作用等 26 項目） ・治療後の情報（卵巣予備能、不妊期間、治療後結婚歴、月経歴、月経異常、挙児希望、妊娠の有無、妊娠時合併症、妊娠転帰、分娩形式、分娩週数） ・再発の有無、再発時の対応（再発の有無、再発日、再発日治療、再発時の妊孕性温存治療の有無、最終生存確認日、最終生存確認時の転帰）
外部への 試料・情報の 提供	<p>主たる研究機関（聖マリアンナ医科大学産婦人科学）へのデータの提供は、Excel ファイル（USB メモリ）にて行います。</p> <p>データと個人を結びつける対応表は、当院の研究責任者が保管・管理します。</p> <p>聖マリアンナ医科大学産婦人科学において、送付された試料情報は施設の規定に従い厳重に保管・管理されます。横浜市立大学附属市民総合医療センター婦人科においても横浜市立大学の規定に従い厳重に保管・管理します。</p>

<p>研究組織</p>	<p>公益社団法人 日本産科婦人科学会 婦人科腫瘍委員会 研究代表者：聖マリアンナ医科大学産婦人科 鈴木直 研究事務局：聖マリアンナ医科大学産婦人科 吉岡範人 研究参加施設：新潟大学医学部産婦人科 榎本隆之 東海大学医学部産婦人科 三上幹男 千葉大学医学部産婦人科 生水 真紀夫 筑波大学医学部産婦人科 佐藤豊実 名古屋大学医学部産婦人科 梶山広明 情報の提供を行う機関：横浜市立大学附属市民総合医療センター</p>
<p>本研究に関するご質問・ご相談等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。 ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますので下記連絡先まで電話またはFAXでお申出下さい。 また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。</p>	
<p>問合せ先および研究への利用を拒否する場合の連絡先： 〒236-0004 横浜市南区浦舟 4-57 横浜市立大学附属市民総合医療センター 婦人科 （研究責任者）岡田 有紀子 電話番号：045-261-5656（代表） FAX：045-231-1846</p>	